

令和2年度
自己点検評価書
[自己点検・評価委員会]

令和3（2021）年9月
大阪人間科学大学

目 次

基準	タイトル	頁
基準Ⅰ	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	1
基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	2
基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD 委員会）	4
基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）	6
基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	7
基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	8
基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）	10
	エビデンス一覧	11

基準Ⅰ	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
-----	------------------------------

◆評価基準

- ① アドミッション・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② アドミッション・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 学力の3要素を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- 1：基準を全て満たしている
- ②：基準を概ね満たしている
- 3：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①アドミッション・ポリシー（以下AP）については、「大学案内(GUIDANCEBOOK)」「学生募集要項」「ホームページ」等において「求める学生像」「高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目」「各学科・専攻の求める学生像」を掲載し周知している。

②入学者選抜においてもAPに合致する学生を受入れるための選抜方法を設定している。面接試験を課す入試ではAPに関連した内容の質問を行い、APを理解できているかを確認している。

③多面的・総合的な評価については、総合型選抜(AO)において「AOポートフォリオ」の提出や個人面接での自己アピール、プレゼンテーションにより「思考力、判断力、表現力」「意欲」を重点的に評価するようにしている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 大学案内(GUIDANCEBOOK)
2. 学生募集要項
3. ホームページ

◆自己点検評価結果における課題と対応

令和2年度に実施した入学者選抜においては、APを明文化・公表し、APに適した入学者選抜を実施したが、学力の3要素を踏まえた多面的・総合的な評価については、特に「思考力・判断力・表現力等」や「主体性等」の評価について、一部の入学者選抜（一般選抜及び共通テスト利用入試）では学力試験のみの評価となっており、今後の課題として認識している。

基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	-----------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①：基準を全て満たしている
 2：基準を概ね満たしている
 3：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①ディプロマ・ポリシーを具体化するために、教育課程編成方針を「カリキュラム・ポリシー」として定め、学生便覧やホームページに明示している。

②教育課程は大きく、全学共通の「基礎科目」と、それぞれの学科の「専門科目」から構成される。基本的には、「基礎科目」で対人援助の専門職業人となるべき基礎を固めた上で、「専門科目」で専門職となるための知識・技術を専門的に学ぶという形になる。また学科毎にカリキュラムマップを作成し、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの要素と関連しているかを明確にしている。併せてカリキュラムマップ上のそれぞれの科目にはナンバリングを付して、4年間の学びのルートを明らかにするとともに、各学科において「履修モデル」を作成し、「ユニバーサル・パスポート」上で学生に公開している。令和3年度入学生に向けては社会福祉学科のカリキュラム変更及び子ども教育学科の学科名称変更にも対応し、履修モデルの作成を行った。

授業においては、全学的にシラバスにおいて、ディプロマ・ポリシーを踏まえた上での到達目標を示すとともに、教育課程における科目の位置づけが理解できるように概要の記載に留意している。また、アクティブ・ラーニングについても具体的にどのような内容で実施されるかをわかりやすく示すことで、学生の主体的な学びを促している。

授業時間内には「学修ポートフォリオ（振り返りシート）」を実施している。これは、授業終了時に学生がその授業のまとめや意見等を記入し、その後担当教員がチェック・添削等した上で、翌週学生に返却するものである。これにより、学生は双方向のやり取りで理解を深めることが可能になり、教員は自身の教授内容の目標、内容、方法の適否について確認をしながら、個々の学生の日々の学修意欲や到達点を把握することができる。

また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う遠隔授業の実施により、授業におけるICT活用のニーズが高まる中、全授業担当教員にアンケートを実施し、即時に検証を行うとともにサポート体制の構築、新たなシステムの導入等の適切な対応を実施し教育の質の維持向上に努めた。

③IR 情報の活用については、学務情報システムのバージョンアップに伴い個々の教員が確認できる学生の成績状況において、各年次の学期ごとのGPAの推移状況の項目を追加し、FAやゼミ担当の学生の履修指導等に活用できるよう改善した。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 3学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. カリキュラムマップ
3. 履修モデル
4. シラバス
5. 学修ポートフォリオ（振り返りシート）
6. 「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査
7. 令和2年度前期遠隔授業に関する教員対象アンケート結果

◆自己点検評価結果における課題と対応

ディプロマ・ポリシーを達成するために、各学科・専攻、各科目担当教員において体系的な教育、教育の質の向上に向けて改善に努めている。今後はカリキュラムマップだけでなく、カリキュラムツリーを作成することで、学生に学びの体系をよりわかりやすく示すとともに、科目間の連携についての理解を促すような取組が必要である。また、コロナ禍で遠隔授業のニーズが高まる中、遠隔授業におけるアクティブ・ラーニングの実施やコミュニケーションの双方向化など、対面授業に遜色のない成果が得られるような実施方法をさらに検討していく必要がある。また、平時においてもICTを活用した教育の充実に向けた検討も進める。

基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD 委員会）
-------	---------------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教員組織となっている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための FD 活動が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①：基準を全て満たしている
- 2：基準を概ね満たしている
- 3：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシーは、学生便覧及び本学HP上に明文化されたものが公表されている。

②大学設置基準を満たした教員組織となっている。また、本学で取得可能な資格・免許に関する養成課程はすべて学校・養成所指定規則等を満たしており、対人援助の専門職業人を養成することが可能な教員組織となっている。

③ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく授業改善をはじめ本学の教育力の向上を目指したFD活動として、以下の活動を行った。

令和2年度においてもピア・レビュー活動の一環として授業の相互参観を実施したが、本年度においては例年の方式とは異なり、「遠隔授業において優れた取組みをしている授業の授業資料等の閲覧」という形式で授業の相互参観を行った。令和2年度はコロナ禍の影響を受けたため、前期はほぼ全科目において遠隔授業による授業実施となった。後期においても一部授業は遠隔授業で実施し、対面授業で実施した科目においても緊急事態宣言時等々における数回は遠隔授業へ切り替えての対応を行った。こうした事態を受け、前期に全学生を対象として「前期遠隔授業に関する学生アンケート」を実施した。その結果、遠隔授業では対面授業と同様の質の担保がなされていないことが示唆され、遠隔授業の質の向上が喫緊の課題であることが示された。本FD研修会は、こうした学修実態を踏まえ、そして令和3年度においても引き続きcovid-19に対する感染防止対策が求められることが明白であったため、さらにはアフターコロナにおいては教育におけるICTの効果的活用が一層求められること等を勘案し実施した。またこれに先立ち、今後の教育におけるICT活用についての基礎的知識の修得を目的とした、教育改革推進プロジェクト企画のFD研修会を実施した。こうした一連のFD研修から、教育におけるICT導入の意義を理解すると同時に、実践事例に基づく授業改善に取り組んだ。定期的に取り組んでいるFD活動としては、下記3点の活動を行った。まず、新任教員を対象とした「FDオリエンテーション研修会」を4月に開催した。次に、学生による「授業評価アンケート」及び「授業評価アンケートに対するリフレクション」に関しては、前期は実施せず、後期のみの実施となった。前期は、コロナ禍の影響により、急遽遠隔授業を実施することとなったため、「授業評価アンケート」の趣旨や内容と齟齬が生じ、このため実施を見送った。前期においてはこれに代わるものとして「前期遠隔授業に関する学生アンケート」を実施して、学生の受講実態や授業及び自己の学習についての認識に関する調査を実施した。令和2年度に関しては、これらに基づき教授方法等の改善に努めた。3点目は、シラバス点検活動である。本

活動は令和元年度からFD活動の一環として位置づけて取組んでいるものであり、活動の趣旨は、第3者によるシラバス点検を行うことによってより良いシラバス作りを行っていくことではあるが、下記2点の効果を目指した活動である。1点目は、他者の作成したシラバスを点検することによって、点検者自身がより良いシラバス作りの観点と方法を学習し、学科・専攻内の教員に対して助言可能な力量を形成すること。2点目は、学科内の開講科目の内容、方法、到達目標を理解することによって、カリキュラムに対する理解を深め、カリキュラムレベルにおける教育改善に繋げていくことである。

また、本年度は全学科のSA学生を対象としたインタビュー調査を実施した。本調査の目的は、学生の主体的、積極的な学習を可能とする授業作りに関する資料の収集である。今後、データを分析し、授業改善に関する課題を抽出していく。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 前期遠隔授業に関する学生アンケート報告書
2. 授業評価アンケート及び結果
3. 授業評価アンケートリフレクションの集計結果
4. 令和2年度教育改革推進プロジェクト企画「FD研修会」実施案内
5. 令和2年度授業相互参観報告書

◆自己点検評価結果における課題と対応

今後の課題は、学生の学修実態をエビデンスとしたFD・SD活動を実施する体制を構築していくことである。そうすることによって、個々の授業を改善していくことのみならず、カリキュラムレベルにおける教育改善を可能とする体制を目指す。この時、教育評価は教育活動における基礎的事項であり尚且つ最重要事項の1つとなるため、これに関するFD活動を必要に応じて実施できるように計画していく。これらの事項を中心としたFD・SD委員会における新生5ヵ年計画を策定したので、今後は本計画に基づき取組んでいく。

基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）
-------	---------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育設備が整備されている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための教育設備整備計画が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①：基準を全て満たしている
- ②：基準を概ね満たしている
- ③：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシー（以下ＣＰ）については、各学部・学科ごとに明文化され、学生全員に配布する「学生便覧」や、全てのステークホルダーが閲覧可能な「ホームページ」にも公表している。

②③教育設備の整備やメンテナンスについては法人本部が一括して管理しているが、事務局においてはＣＰに適した教育設備や環境が整備されるよう適切に計画を立案し、随時見直しを行っている。令和２年度においては、５号館の耐震改修工事及び３号館の屋上全面防水工事を実施した。またＩＣＴ教育の推進及び新型コロナウイルス感染症への対応のため、遠隔での双方向授業やオンデマンド授業が可能となる機器の整備や、コンピュータ実習室における機器更新を行った。その他「教学実態調査」においても、学内施設や設備に関する意見や要望が寄せられており、その内容については法人本部と共有・連携を図り、充実や改善に役立てている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 「2020 学生便覧」

◆自己点検評価結果における課題と対応

令和３年度においては、学内のどこからでも遠隔授業が受講できる環境や、対面授業においてもＩＣＴを活用した主体的・対話的な授業が実施できる環境構築のため、学内全域に安定した通信環境を整備し、学生一人一人が常時モバイル端末から接続できる全学的な無線ＬＡＮ（Wi-Fi）の環境整備を行い、遠隔授業の普及に伴い蓄積されたコンテンツを学生の自学自習に活用できる学内環境の提供を実現する予定である。

基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 入学者の追跡調査等により入学者選抜方法の妥当性が確認されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
 2: 基準を概ね満たしている
 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①ディプロマ・ポリシー（以下D P）については、「大学案内(GUIDANCEBOOK)」「ホームページ」において明文化し幅広く公表している。

②D Pに沿った人材を育成するためにカリキュラム・ポリシーが定められ、それに基づきアドミッション・ポリシー（以下A P）が策定されていることから、入学者選抜においても面接試験を課す選抜では、将来の目標実現に結び付ける具体的なビジョンを確認するなど、D Pに適した学生を受入れるための選抜方法を設定している。

③A Pにおいては高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目も明文化し、そこにはD Pで定めているコミュニケーション能力やその基礎となる語学力（国語力）を有していることとしている。これらの入学者選抜方法の妥当性を確認するため、入学者の追跡調査を行っている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 入試種別毎のG P A分布
2. 入試種別毎の単位取得状況
3. 入試種別毎の中退状況

◆自己点検評価結果における課題と対応

D Pについては明文化し、公表についても幅広く周知している。入学後の追跡調査によると、入試種別毎のG P A分布では公募推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、指定校推薦(入学当時の名称)については大きな差異は見られないが、A O入試(入学当時の名称)については低い傾向が見られ、取得単位状況、中退状況においても同様の傾向が見られることから、今後も入学者選抜方法の妥当性の確認を継続して実施していく。

基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①本学は、教育理念である「自立と共生の心を培う人間教育」のもと「人間性豊かな幅広い知識を持った専門職業人」を育成することを教育目標としている。この教育目標は「ディプロマ・ポリシー」に反映され、学生便覧やホームページに明示している。

②単位の認定、卒業・修了要件については学則で定められており、適正に運用されている。成績評価、進級条件、キャップ制、GPAの活用も「大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則」「大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程」「大阪人間科学大学 試験内規」に定められており、適正に運用されている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う遠隔授業の実施により、定期試験についても対面で実施できない状況が続いた。そのような状況下、教務委員会において前期・後期ともにそれぞれ成績評価に関する指針をあらためて策定し、定期試験だけに頼らず複数の評価を組み合わせる総合評価とすることとし、学生の多面的な評価により到達状況を測ることで単位認定を行った。また、学生の経時的な変化を把握しながら4年後にディプロマ・ポリシーへ到達できる「OHSポートフォリオシステム」（ディプロマサプリメント）についても導入2年目を迎え、順調に稼働中である。

③IR情報の活用については、単位修得状況、GPA、成績評価方法等に関する情報を把握した上での、各種規程の整備や教育課程の実質化を図っているところである。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 3学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. 大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
3. 大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
4. 大阪人間科学大学 試験内規
5. 令和2年度前期・後期成績評価についての基本指針
6. 大阪人間科学大学 OHSポートフォリオ

◆自己点検評価結果における課題と対応

I R 情報については、教務委員会における各種制度の導入に関して、成績評価、進級条件、キャップ制、G P A の活用といった、データを分析し利用しているが、個々の学生に対しては今のところ、それぞれの個人情報だけがフィードバックされている状況である。今後は一人ひとりの学生に対して、例えば自身のG P A だけでなく、学科別や学年別のG P A の平均値や分布を併せて示すといったように、全体の中での自分のポジションが確認できるような公表方法を検討していく必要がある。また、「O H S ポートフォリオシステム」(ディプロマサプリメント)についても、カリキュラムツリーの活用など学生の学修成果、学修状況の把握を行い、専門職業人としての能力の獲得に向けた教育改善と可視化に活用する必要がある。

基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）
-------	--------------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している社会との接続が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①について大学 HP、大学案内等に公開し、周知を図っている。また学生には新入生対象のガイダンスやオリエンテーション等の行事を通じて説明している。合わせて保護者に対しても毎年実施している保護者懇談会にて教務担当部長より説明している。

②については、各学科・専攻の学びや専門性を活かした進路選択をする学生の割合が高く、社会に必要とされる人材を輩出していると言える。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 就職率 95%
2. 専門職化率 社会福祉学科：89%、介護福祉専攻：100%、視能訓練専攻：100% 子ども保育学科：90%、言語聴覚専攻：100%、理学療法学科：82%
3. 国家試験合格率 令和3年3月卒業者の各国家試験の合格率は以下のとおりである。 社会福祉士:28.6%(29.3%、50.7%)、精神保健福祉士:53.8%(64.2%、71.4%) 介護福祉士:91.7%(71.0%、非公表)、視能訓練士:93.8%(91.1%、92.8%) 言語聴覚士:100%(69.4%、86.5%) 理学療法士:69.8%(79.0%、86.4%) ※カッコ内は 前：全国平均合格率、後：4大新卒平均合格率

◆自己点検評価結果における課題と対応

エビデンス3に記載のとおり、各国家試験で社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士以外の資格では全国平均、4年制大学の新卒者合格率を上回る合格率となった。今回、理学療法士においては問題傾向が変わったこととコロナ禍におけるグループ学習ができなかったことが前年度と比較して25ポイント近くも下がった大きな要素となったと考えられる。令和3年度においては就職に必須資格である保健医療学部全体の国家試験対策を確立すること、学科横断的取り組みと学年縦断的な取り組みをシステム化していきたいと考える。

エビデンス一覧

基準	タイトル
基準Ⅰ	大学案内(GUIDANCEBOOK)
	学生募集要項
	ホームページ
基準Ⅱ-1	3学部と各学科・専攻の3ポリシー（再掲）
	カリキュラムマップ
	履修モデル
	シラバス（シラバス記入要領）
	学修ポートフォリオ（振り返りシート）
	「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査
	令和2年度前期遠隔授業に関する教員対象アンケート結果
基準Ⅱ-2	前期遠隔授業に関する学生アンケート報告書
	授業評価アンケート及び結果
	授業評価アンケートリフレクションの集計結果
	令和2年度教育改革推進プロジェクト企画「FD研修会」実施案内
	令和2年度授業相互参観報告書
基準Ⅱ-3	「2020 学生便覧」
基準Ⅲ-1	入試種別毎のGPA分布
	入試種別毎の単位取得状況
	入試種別毎の中退状況
基準Ⅲ-2	3学部と各学科・専攻の3ポリシー（再掲）
	大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
	大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
	大阪人間科学大学 試験内規
	令和2年度前期・後期成績評価についての基本指針
	大阪人間科学大学 OHSポートフォリオ
基準Ⅲ-3	令和2年度 卒業者就職率
	令和2年度 就職者専門職化率
	令和2年度 国家試験合格率

令和2年度
外部評価報告書

令和3（2021）年9月
大阪人間科学大学

外部評価委員

氏 名	職 名
はし おだに 箸尾谷 知也	摂津市教育委員会 教育長

外部評価議事要旨

日 時：令和 3 年 9 月 21 日（火）10:00~11:00

場 所：摂津市役所 教育長室

出席者：

（評価員）箸尾谷委員

（本 学）井上学長

藤田大学事務局次長

1.令和 2 年度自己点検評価について

藤田大学事務局次長から資料に基づき自己点検評価についての説明が行われ、意見交換の後、箸尾谷委員から「大学において十分に自己点検評価が行われており妥当である」との外部評価を受けた。

以上